

災害復旧技術専門家を岩手県に派遣

公益社団法人 全国防災協会

(公社)全国防災協会では、都道府県や市町村が管理する災害により被災した公共土木施設の早期復旧支援に向け、平成15年11月に「災害復旧技術専門家派遣制度」を創設しました。災害復旧技術専門家は、国や都道府県の災害復旧業務に長年携わり、制度を熟知し災害復旧事業に関する高度な技術的知見を有する経験豊富な技術者（本省防災課の災害査定官経験者や国や都道府県の防災担当の本庁課長級及び事務所長経験者で構成）で、北海道から沖縄までの全国に、402名（令和5年6月）が登録されています。

平成26年5月には、国土交通省水管理・国土保全局防災課より「災害復旧・改良復旧事業の技術的助言などの支援（試行）について」の通達が出され、TEC-FORCE が出動した大規模災害で、被災自治

体から本省防災課に要請があり、防災課が必要と判断する場合、**全国防災協会が無償で技術専門家を派遣**するなど、制度を充実してきています。これまでも多くの地方公共団体等の要請に応じ、多くの災害復旧技術専門家を派遣し、迅速かつ確かな災害復旧事業の促進に寄与しています。

今回、令和5年8月12日～15日の豪雨による被害に対して岩手県の要請により災害復旧技術専門家を派遣し、復旧工法などについて技術的助言を行いました。この豪雨災害に際してはTEC-FORCEの出動がありませんでしたので防災課長通達に基づく派遣ではなく、岩手県からの要請による旅費をご負担いただく有償派遣としています。

○岩手県への派遣

派遣概要

1. 令和5年8月12日～15日の豪雨による岩手県 の状況

8月12日07時50分に線状降水帯の発生情報「顕著な大雨に関する気象情報」が岩手県内陸に発表されました。

東北地方の上空には寒気が流れ込んでいて、また、三陸沖には低気圧があって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となっていた状況で線状降水帯が発生しました。

2. 派遣された災害復旧技術専門家（敬称略）

派遣日：令和5年9月11日（月）

派遣者：大利 泰宏（株）オリエンタルコンサルタンツ
東北支社

佐々木範喜（岩手ニチレキ（株）

木村 篤（アジア航測（株）盛岡支店）

3. 活動報告（支援・助言内容）

① 宮古市道 二級市道上摂待門沢線、二級市道摂待刺柄線

地先名：岩手県宮古市田老上摂待地内、岩手県宮古市田老摂待地内

災害状況：時間100mm、24時間雨量500mmを越える記録的な豪雨により道路の法面崩壊、路面の浸蝕、流出の被災を受けている。

助言：

(1) 二級市道上摂待門沢線上摂待地内：道路の法面崩壊

・起終点の考え方について、擦り付けを考慮したうえで復旧延長を検討のこと。

・被災メカニズムや被災箇所の地形等を踏まえ、被災原因の除去に必要であれば排水工なども検討のこと。

・工法の選定については、災害手帳、道路土工指針

等に記載されている法面保護工の選定フローを踏まえた経済比較により説明のこと。

- ・復旧にあたり民地を買収する場合は、所有者の同意書を査定時に提示できるよう準備のこと。
- ・立木補償についても同様。用地補償費を申請のこと。
- ・全面通行止めとなっているため、道路管理者として通行止め施設など適切に設置のこと。
- ・道路としての交通量等必要性について整理のこと。

(2) 二級市道摂待刺柄摂待地内：路面の浸蝕、流出

- ・被災原因が道路を横断する管渠の通水能力を超える出水により道路が流出したものであり、管渠能

力について必要な通水断面の確保を検討のこと。

- ・極力健全な施設を活かした復旧工法を検討のこと。
- ・横断管の入れ替えを行う場合は必要最小限の管長となる(流路方向等を考慮しつつ冗長とならない)よう位置・角度を検討のこと。
- ・舗装の復旧について、表層だけではなくオーバーフローした流水により路盤も被災している説明を要するため、復旧範囲については路盤の被災状況を確認し説明できるよう整理のこと。
- ・施工時に全面通行止め不可であれば、工事中の迂回路についても検討のこと。
- ・舗装構成が説明できるよう、道路台帳や既設の断面を計測するなど準備のこと。

被災状況写真

(1) 二級市道上摂待門沢線上摂待地内：道路の法面崩壊



(2) 二級市道摂待刺柄摂待地内：路面の浸蝕、流出



- ② 岩手県管理 砂防設備 オノ神沢砂防流路工
 地先名：岩手県下閉伊郡岩泉町中里地内
 災害状況：時間100mm、24時間雨量500mmを越える記録的な豪雨により溪流保全工（流路工）の河床低下、護岸工倒壊、堤体盛土欠損の被災を受けている。

助言：

- ・河床低下による被災であることから、河床安定を図るため帯工を検討することについては問題ない。
- ・根固め工と帯工を両方計上するのは二重対策と思

われる。河床の安定を図るため終点部に設置している構造の帯工を一定のピッチで設置することで検討のこと。（3か所程度）

- ・既設ブロック積（混合擁壁）が基礎部についても被災があるか確認のこと。
- ・既設バック堤について、施工時一部開削することで、脆弱となるため施工性も踏まえ比較検討のうえ、既設堤防と同等の治水安全度を確保のこと。

なお、背後集落への影響もあることから応急工事に対応することについては問題なく、施工時に必要なものであるため応急本工事として申請しても問題ない。

被災状況写真



- ③ 岩手県管理 一般県道安家玉川線
 地先名：岩手県九戸郡野田村根井地内
 災害状況：24時間雨量179mmを記録する豪雨により二級河川安家川が増水し、溢水により舗装、路盤の流出や側溝、防護柵損壊の被災を受けている。

助言：

- ・被災原因が河川が増水による舗装流出ということであるが、被災原因の除去として、既設護岸が被災により護岸としての機能を有しているか確認（死に体の判断）のうえ、対策工法を経済比較の

上検討のこと。

- ・周辺に適当な迂回路がない等により冬期前に全面通行止めを解除しないといけないものであれば応急工事を検討のこと。（応急本工事として検討）
- ・道路幅員については現況より狭くなるのは機能低下となるので留意のこと。
- ・道路自体を嵩上げするのは改良となってしまう、災害復旧（国費）として対応するのは困難。単独費の充当などを検討する必要がある。
- ・施工時の瀬替え等仮設工についても検討のこと。

被災状況写真



4. 災害復旧技術専門家派遣フロー

